

NPO 法人全国ことばを育む会

私たちは：

ことばやコミュニケーションに特別のニーズがある子どもたちの親で構成する、「親の会」の全国組織です。子どもたちとその家族のため、教育環境の整備、地域社会での自立と社会参加を支援しています。

会員の子どもたち(言語障害、難聴、発達障害児等)は、特別支援学級に在籍しているか、または通常学級に在籍しながら通級指導教室を利用している子どもたちです。会自体は設立60周年を迎えました。

今回、学習指導要領改訂作業へのヒアリングの機会に申し上げたい点

(1) 障がい特性の共有と、学校全体での意識改革推進の必要性

ことばは心の発達にかかわりが深く、子どもの発達全体を通して育てていくもの。こどもに寄り添い、育てる、学級・学校・指導者が大切です。

通常学級の児童・担任・保護者において、障がい特性の認識の共有が十分とはいえず、障がいの特性や子どもたちへの必要な対応について、通常学級の児童・担任・保護者に向けての啓発促進が必要です。

●意識の改革は通級指導教室内部だけではなく、学校全体としてやらねばならないこと。通常学級において、正しい理解が進んでいないために、本人へのいじめ、特別視・疎外感を味わうようなことがまだ見られている。

●特別支援学級・通級指導教室未設置校の場合、通常学級担任だけでなく、管理職の意識が十分でない場合もある。他校へ通級する児童生徒がいても、配慮が届かないこともみられる。

●通級のタイミングは、自校通級では特に午前中が多く、教科の習得に遅れが出るきらいがある。親たちは、通級により欠ける教科学習のキャッチアップに悩んでおり、負担のない範囲でよいので、在籍学級担任により補充学習の努力を願いたい。

●同じ指導要領に従っているはずなのに、地域により、教育行政による対応・支援に大きなばらつきがみられる。地域の実情は理解するものの、これをきちんと評価して統一的な指導を願いたい。

(2) 「個別の指導計画」の積み上げの徹底

障がいがある子どもへの切れ目のないサポートのため、「個別の教育支援計画」に繋がる「個別の指導計画」の作成の徹底を図る必要があります。子どもを熟知した親、通常学級担任、通級指導教室担当の三者での計画策定について、強い指導を願います。

●通級の子どもらの多くは障害者手帳を持たず、将来の節目節目でのつまずきを予見しがたい。子どもの個別の教育支援計画につなげるため、指導計画の積み上げが重要となる。しか

し、教育支援計画を幼少から準備されることが極めて少ないばかりか、個別の指導計画が作成されていないこともある。

●個に合わせた一貫した支援計画への基礎であり、親もしっかりと計画づくりに参画するので、地域教育行政への指導を願いたい。

●特に高校進学等において、進学先での合理的配慮が必要とされる証左になるなど、子どもへの切れ目のない支援を行うにあたり非常に重要なことと捉えている。

(3) 教員の専門性を高める研修への理解

子どもの落ち着いた人間関係づくりを望むうえで、指導を支えるため正規の職員を増やしてもらう必要があることは無論ですが、これと併せて、通級指導教室担当のローテーションが早かったり、経験年数が浅い教員・臨時採用の教員が配置されることが多いにもかかわらず、研修が十分に行われているとはいえない状況があります。このため、指導担当の専門性がなかなか形成されにくい現状です。担当教員が研修を受ける機会の確保を後押ししていただき、やる気が削がれるようなことがないようにあって欲しいと考えます。

●特に郡部では、校内に特別支援学級や通級指導教室の担当が1名、などと担当教員が少なく、専門性習得のため、どうしても校外の指導現場での研修会や担当同士の情報交換などに自ら参加する必要があるし、自らも参加したいという担当教員がほとんどである。このような場合に管理職の不理解から参加の了解が得られず、数少ない研修の機会が閉ざされている、との声が多く聞こえる。

●通級指導教室担当教員らを対象とした機関による調査からも、経験年数の低さをカバーする研修の機会の少ないことへの意見が多く述べられている。

●通級指導教室を肌で感じた経験が無い指導主事が充てられる教委もあり、現場の担当教員も、親も困惑することがある。

●親は、担当教員の専門性が高まるなら、子どもへの指導の時間が一時的に圧縮されても我慢し、協力したい。専門性が低い担当教員から、指導を受けねばならないことの方が、よほどつらいと考える。

(4) 「働き方改革」への誤った認識の是正

自治体により差があるが、近年、全般的に親や、親の会活動への、教員の関与が薄くなっています。教員の健康や職務負担の軽減を図ることは無論重要で賛成です。しかし、親・親の会と教員が協働して障がいがあるこどもの成長を見守る特別支援教育においては、教員と親、親の会との関りは極めて重要です。その点を考慮せず、親たちとの接点を狭めようとする地域教育行政の動きが見えるので、この認識を改めるようご指導願います。

●「親の会と拘わらないよう」担当教員へ指示をする教育委員会や校長が存在する。これまでの、通級制度や支援措置の成立過程に親や、親の会が果たした役割が認識されていない。

●通級においては、担当教員の協力が無いと、親たちは結び付くことができない。情報が遮断され、親の会としての存続・活動ができなくなっている。結果として学校側も環境整備に影響を受けることが認識されていない。